



取締役会長
笠原 克己 氏

株式会社 エムケー 様

<http://www.mkprint.co.jp/>

本 社：埼玉県深谷市上原 272
TEL. 048-583-4647

創 業：昭和 45 年 (1970 年)
取締役会長：笠原 克己
代表取締役社長：笠原 崇



徹底した数値管理のもとで、UV 印刷の生産体制を強化 L全判対応、6色、UVコートニスの高いポテンシャルをもつ V4000LX を導入

株式会社エムケーは、パッケージ・化粧箱の製造から POP・ディスプレイ什器の製造まで、板紙を中心としたビジネスを展開する印刷会社である。企画・設計・印刷から製函までの社内一貫体制で、「早く」、「美しく」、「確実に」をモットーとして、顧客ニーズにフレキシブルに対応。2016 年 4 月より、笠原 崇氏が新社長に就任し、新体制の元で、さらなる飛躍を目指している。同社ではかねてより進めてきた UV 印刷の体制をさらに強化し、高い生産性と高付加価値印刷の両立を実現するために、UV 仕様、コーティングユニット搭載の四六全判 6 色印刷機 V4000LX-6 を 2016 年 3 月に導入している。導入の経緯と効果、今後の展望について、同社の取締役会長 笠原 克己氏、取締役工場長 小林 修氏、製造部部長 木村 康一郎氏、製造部業務課課長 片貝 純一氏、営業部 鈴木 貴行氏にお聞きした。

地域に愛される

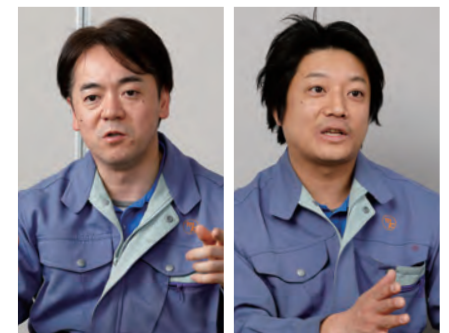
パッケージ印刷会社として成長

昭和 45 年に創業した株式会社エムケーは食品関連、電気製品、医薬品、カー用品などのパッケージにトップクラスの技術とノウハウ、最新の設備を投入し、様々な顧客のニーズに対応してきた。2009 年には長年培ったパッケージ印刷の技術を土台として、POP・ディスプレイ什器の分野に参入。現在、この分野は同社の売り上げの約 25% を占めるまで成長している。同社は環境保全活動にも意欲的に取り組んでおり、2014 年 10 月には埼玉県より環境保全や CSR 活動に貢献している企業として「彩の国工場」に認定されている。取締役会長の笠原 克己氏は「彩の国工場」の認定について「当社は企業理念に基づき、『充実した環境・設備からお客様に喜んでいただける製品づくり』に取り組んでまいりました。『彩の国工場』に認定されたことにより、パッケージ製作のプロフェッショナルとして、より一層環境に配慮し、社会的責任のある地域に密着した

企業を目指していきます。」と述べている。

徹底した数値管理が お客様満足の充実につながる

パッケージ印刷はリピートの仕事が多く、同じ色の再現性が厳しく求められるため、色調整によるロス時間や損紙の発生が課題となっていた。ここに色の数値管理という改善のメスを入れたのが、製造部部長の木村 康一郎氏であった。「私は色を徹底して数値管理することで、経験や勘によるあいまいさを排除しました。分光式色調管理装置を駆使した数値管理で、作業者が変わっても特色も含めて同じ色に合わせられる環境を構築しました。ニスコーティングにおいても光度計を導入し、同じニスコーティング品質を管理できるようにしました。」と木村部長。さらに、製造工程の数値による見える化も同時に進行させた。「印刷工程の全ての作業毎に生産実績時間のデータベースを蓄積していき、実績データを元に標準時間の設定をしました。この時間を超過している



製造部部長
木村 康一郎 氏

製造部業務課 課長
片貝 純一 氏

作業を集中して改善することで、効率化を図ることができました。(木村 部長) 製造部業務課 課長 片貝 純一氏は「専用の稼働管理システムに通し枚数など仕事の形態を入力すると、仕事の終了時間が計算されます。当社ではおおむねその時間通りに仕事が完了します。仕事が予定通りに進行するので、計画をたてやすく、お客様の要望に小回りよく対応できています。これが当社の強みの一つです。」と改善活動を続けてきたメリットを強調する。

WORKS

実績紹介



食品・飲料、タバコ、オーディオ機器など数多くの種類のパッケージ商品を手掛ける



お客様の目を引く、大型什器の印刷にV4000LX-6が活躍

UV 機増設で生産体制の強化を図る

同社の大型 POP・什器印刷の仕事は、油性の四六全判4色印刷機で対応してきたが、さらなる生産性と需要拡大を実現するためには、UV印刷機の導入が急務となってきた。生産体制の一層の強化を目指し、2015年初めより、四六全判サイズのUV印刷機導入への検討が始まった。

V4000LX-6に決定した経緯について同社の木村 部長は次のように振り返る。「大型のPOPや什器の印刷に対応するために、6色L全判対応のニスコーター付きUV印刷機を是非導入したいというのが、当社会長の希望でした。これまで四六全判の4色より多い色数の仕事は2パスになってしまうことや、板紙印刷での給紙安定化が課題でした。こうした状況の中、新社長の元で、V4000LXを検討することになり、同じ基本性能を持つV3000LXでパッケージ印刷を行っている工場の見学を通じて、給紙性能や印刷品質など当社が求めている性能を十分クリアしていることを確認し、導入することに決定しました。」



笠原会長(写真右から4人目)と、小林工場長(写真右から5人目)を中心に印刷部門の皆さん

大型のPOP・什器印刷をメインとして高難度の仕事に活躍

V4000LX-6では現在、同社のPOP・什器印刷の約7~8割の仕事をこなしている。POP・什器印刷は複数台で印刷したパーツを合体させて完成させることが多く、接合部の色合わせや見当精度が要求されるが、V4000LX-6では確実に対応しているという。「4色プラス特色1色+UVコートニスといった仕事や、6色以上で多いものは11色といった、色数が多く難易度が高い仕事をV4000LXで印刷していますが、難なくこなしています。V4000LXのツボキーは常に安定して揃っているので、色を出すのがスピーディです。また、メンテナンスモードによってニップ幅の確認も簡単です。こうした機能により色替えや特色が多いパッケージ印刷でも段取り時間が早く、非常に助かっています。」とV4000LX-6の導入後の評価を述べる取締役工場長の小林 修氏。

V4000LX-6の性能を、お客様にも実機で体感してもらう

V4000LX-6を活用した今後の展望について「念願のL全判対応の6色UV印刷機が導入されて、当社のUV印刷機による生産体制はより強固になりました。工場見学や、印刷物の立会いの機会を増やし、V4000LXの性能を実機で体験してもらうことで、次の受注につなげていきたいです。」



営業部 鈴木 貴行 氏

と語るのが同社営業部の鈴木 貴行 氏だ。営業も印刷現場も一体となって新たな受注拡大を狙う同社に、V4000LX-6は今後の大きな武器となりそうだ。



コーティングユニット搭載、四六全判6色印刷機 V4000LX-6

リョービMHIグラフィックテクノロジー株式会社
東日本営業部 東日本支社 金子 英昭
四六全判印刷機 V4000LX は板紙のパッケージ印刷に対応した当社のフラッグシップ機となります。V3000LXを導入しているパッケージ印刷会社の工場をご案内し、印刷品質や操作性の良さを実感していただきました。導入された6色、コーティング機が、これからも株式会社エムケー様の製造力強化にお役にたてるよう、サービス、営業共にバックアップしていきます。

